

マスタスレーブ接続

マスタ機のクロック出力をスレーブ各機の外部クロック源入力に接続することにより同期運転が可能です。

スレーブ機 = 1 枚のとき：
(図 1 - 5 A 参照)

【 C B O X - 1 0 4 】 + 【 C C 0 8 D - 1 0 0 】 で接続することができます。

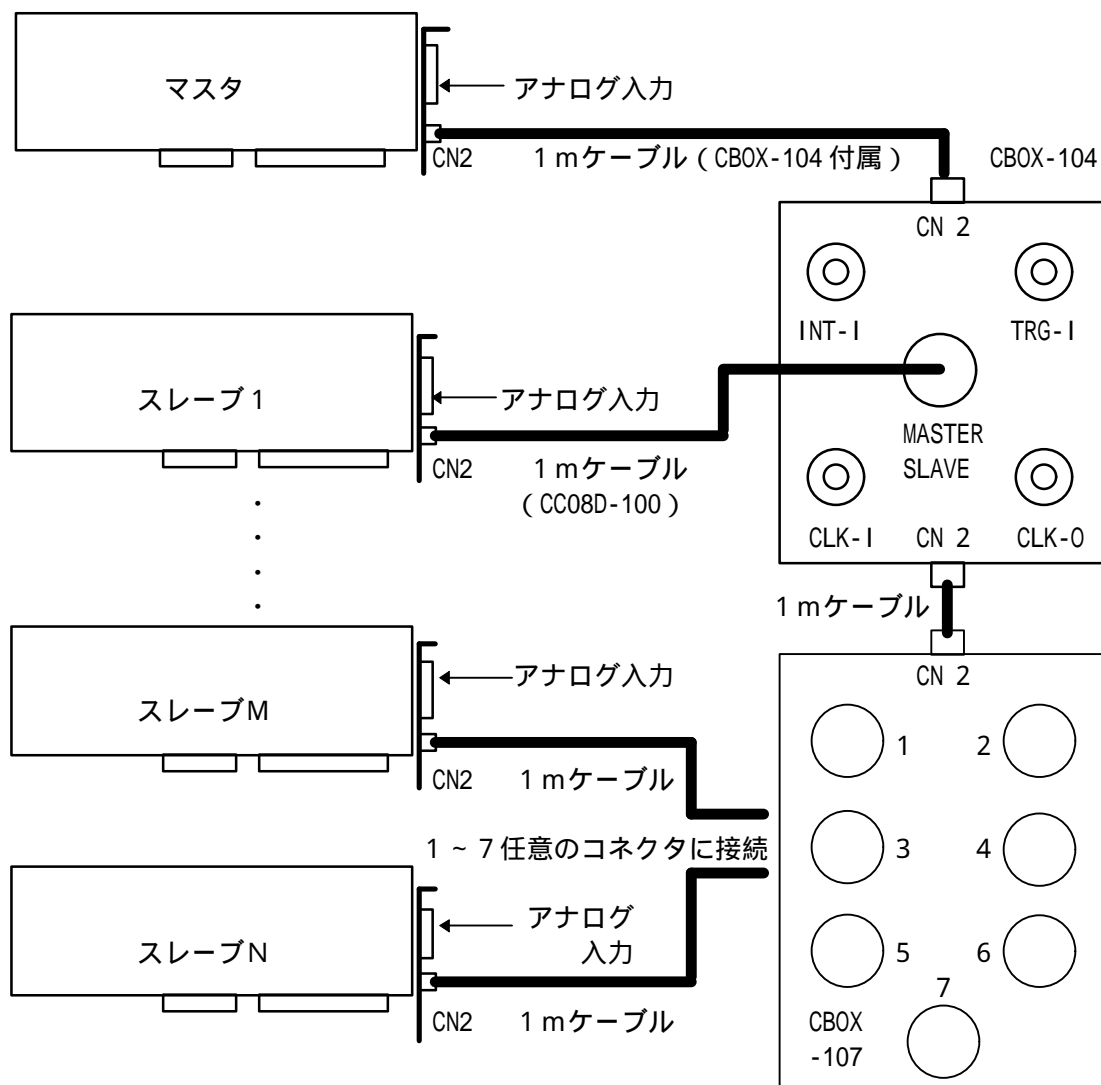
スレーブ機 2 枚のとき：
(図 1 - 5 B 参照)

【 C B O X - 1 0 4 】 + 【 C B O X - 1 0 7 】 + スレーブ数分の【 C C 0 8 D - 1 0 0 】で接続することができます。

なお、マスタ機が内部クロック源を使用し、外部トリガや外部割込みを使用しないときは【 C B O X - 1 0 4 】が不要になります。すなわち図 1 - 5 B で【 C B O X - 1 0 7 】の C N 2 をマスタ機に直結することができます。

A D M - 6 5 2 / 6 5 6 A T

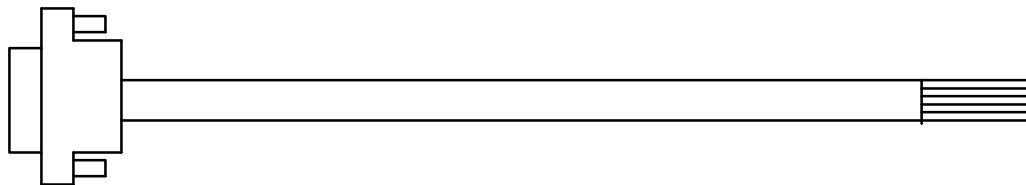
図 1 - 5 B . スレーブ機 2 枚以上を接続する場合



【注】 スレーブ機の C N 2 を直接 “ マスタ機の C N 2 ” または “ C B O X - 1 0 4 の C N 2 ” に誤まって接続すると故障の原因になります。添付またはオプションの専用ケーブルはストレートなので《 C L K - O 》出力同士が衝突するためです。

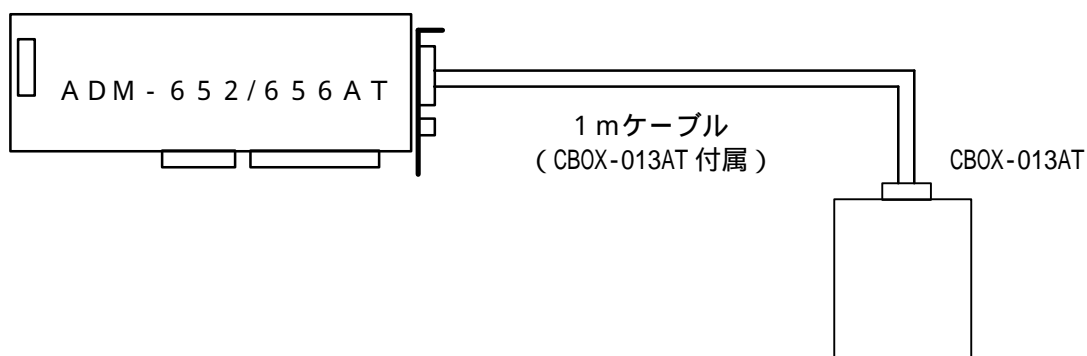
DS37S-150: アナログ入力専用の1.5mシールドケーブルです。(片方バラ)
(¥6,500)

図1-5C. アナログ用シールドケーブル



CBOX-013AT: 16チャンネルBNC接続ボックスです。/ スチール製。
(¥38,000) 寸法 = 120W × 160L × 45H / 突出部を含まず。

図1-5D. BNC接続ボックス



汎用デジタル入出力パネルセット

DPS-88PG (¥11,000): ハンダ付け用プラグ付。/ + +

DPS-88CL (¥16,000): 1.5mケーブル付。/ + +

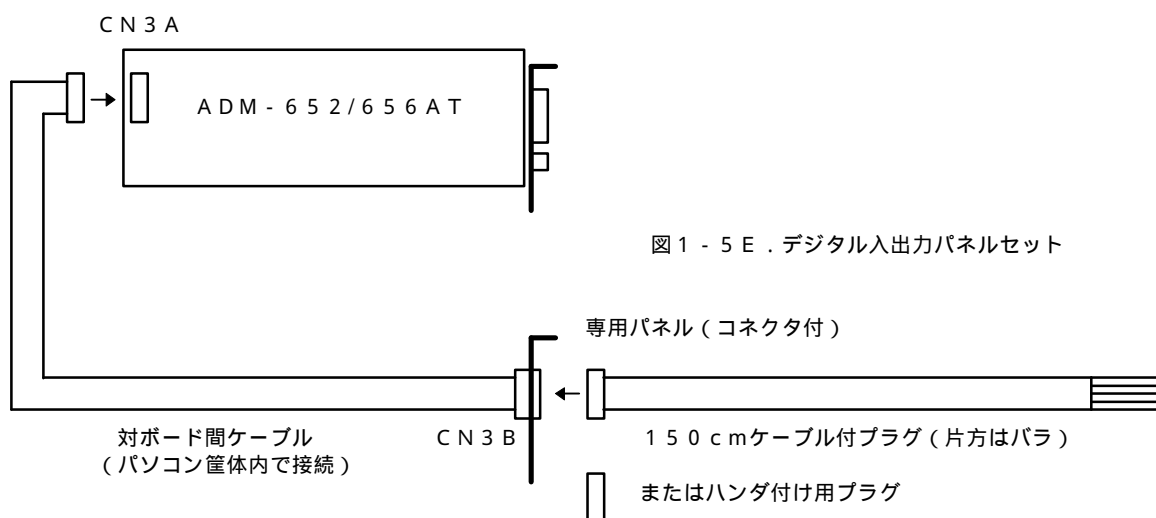


図1-5E. デジタル入出力パネルセット

汎用デジタル入出力コネクタ (C N 3 B)

ヒロセ製 3 6 ピン・ハーフピッチです。

専用パネル側 : D X 1 0 A - 3 6 S

ハンダ付け用プラグ : D X 4 0 - 3 6 P (0 3) / D X 3 6 - C V 1

図 1 - 5 F . 汎用デジタル入出力コネクタ (C N 3 B) ピン接続

信号名		ピン番号	ピン番号	信号名
(デジタル入力ビット 0)	I 0	1	1 9	D G (デジタル・グランド)
(" " " 1)	I 1	2	2 0	D G (" . ")
(" " " 2)	I 2	3	2 1	D G (" . ")
(" " " 3)	I 3	4	2 2	D G (" . ")
(" " " 4)	I 4	5	2 3	D G (" . ")
(" " " 5)	I 5	6	2 4	D G (" . ")
(" " " 6)	I 6	7	2 5	D G (" . ")
(" " " 7)	I 7	8	2 6	D G (" . ")
(デジタル出力ビット 0)	Q 0	9	2 7	D G (" . ")
(" " " 1)	Q 1	1 0	2 8	D G (" . ")
(" " " 2)	Q 2	1 1	2 9	D G (" . ")
(" " " 3)	Q 3	1 2	3 0	D G (" . ")
(" " " 4)	Q 4	1 3	3 1	D G (" . ")
(" " " 5)	Q 5	1 4	3 2	D G (" . ")
(" " " 6)	Q 6	1 5	3 3	D G (" . ")
(" " " 7)	Q 7	1 6	3 4	D G (" . ")
(空き)		1 7	3 5	(空き)
(I S A バス + 5 v 出力)	+ 5 v	1 8	3 6	D G (デジタル・グランド)

【注】アナログ・グランド A G とデジタル・グランド D G はボード内部で接続されています。

1-6 . 論よりRUN (試運転)

以下の手順で試運転してください。動作に不具合があるときは1-2項, 1-3項に記されたボード上の設定を確認してください。それでも不明なときは本書巻末に添付の【Q & A フォーム】にシステム情報を御記入のうえ当社技術部までFAXしてください。迅速に応答する体制となっています。なおTELいただく場合も客観情報の整理・評価は問題解決のスピードアップにつながりますから事前にFAXしてください。

= = 準備 = =

本ボード上の諸設定は出荷時の状態(1-2項, 1-3項)とします。

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を切った状態でカバーを外し、任意の拡張(IISAバス用)I/Oスロットに本ボードを無理なく押し入れ装着します。
このとき注意することは、

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を必ず切っておく。電源を入れたままで本ボードを抜き差しすることは双方の故障原因となります。

本ボードのカードエッジ(金メッキ端子)に手を触れないこと。手を触れると、(油脂成分の付着等により)接触不良の原因となることがあります。もし、触れてしまった場合はアルコール等で拭き清めてください。

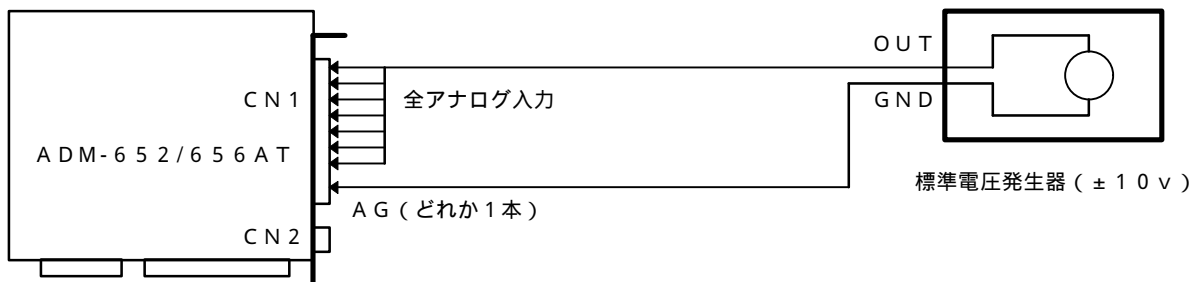
イクステンダ等により本ボードをI/Oスロットから引き出した状態では誤動作を起こすこともありますから、必要以外は使用しないでください。

同時に使用する他のI/Oボードがあり、これに設定されているI/Oアドレスが本ボードの(出荷時)設定と重なる場合は、本ボードのI/Oベースアドレスをシステムの許す範囲で変更・設定してください。その場合は、試運転プログラムの冒頭で本ボードのI/Oベースアドレスを初期値から変更した値に設定する必要があります。【1-3項参照】

本ボードのアナログ入力テスト用の信号源(± 10 V以内)に接続します。
(図1-6)

以上で準備完了です。電源投入順序は全機器同時、または外部機器を先にパソコン本体を最後に行います。電源切断は逆順序です。

図 1 - 6 . 動作確認用の外部機器接続



== 運 転 ==

試運転・動作確認用プログラム“65 QB2”を使用します。

本プログラムはMS-DOS版です。御使用に先立ち、添付のソフトウェアをインストール(4-1項)しておく必要があります。また、当プログラムのソース(Quick-Basic)も同名(拡張子:BAS)で添付されています。

なお“65 QB2.EXE”は日本語モードでは正常な表示ができないので、事前に英語モードに切り替えてから“65 QB2.EXE”を呼ぶ“65 QB2.COM”を使用してください。

【注】ファイル名：	ADM-652AT用は	= 2
	ADM-656AT用は	= 6

テストシステムの電源を投入し、MS-DOSを立ち上げます。

試運転・動作確認用プログラム“65 QB2”を読み込み、実行します。

プログラムがスタートすると、
全チャンネルのアナログ入力をサンプリングしては数値表示する動作を繰り返します。

操作は 【ENTER】キー：スタート
【SPACE】キー：中断/再開
【ESC】キー：終了

各アナログ入力範囲の標準出荷時(ボード上のスイッチ)設定は±10V、
本プログラムではADデータを16進数(Hex)で表示します。

